

高齢者の人権に係る課題

3 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの推進について

| | |
|----|--|
| 概要 | 認知症施策推進大綱を踏まえ、認知症の発症を遅らせ、また、認知症になり生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しながら、周囲や地域の理解と協力により、住み慣れたまちで自分らしく安心して暮らし続けることができる社会を目指し、取り組んでいます。特に、認知症への偏見をへらし、認知症への理解を促すために、認知症オレンジLINEを通じて、認知症サポーターや認知症に関心のある人に情報発信を行っています。さらに、認知症サポーターには、行方不明者の情報を発信し、見守りや捜索協力を依頼しています。また、関係団体による認知症カフェの支援をはじめとしたネットワーク構築を行い、認知症の人を中心に認知症の人に寄り添う活動への展開を目指しています。 |
|----|--|

| 評価視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|-----------|---|---|--|--|
| ① 人権擁護の担保 | 認知症の人や認知症と疑われる人が、できるだけ早期に診断を受け、今後の生活について相談ができるよう、認知症初期集中支援チームを4チーム設置（地域福祉課家族支援係）。 | 認知症の相談窓口の周知が不十分。横須賀市高齢者福祉に関するアンケートにおいて、相談窓口を知っていると答えた人は31.1%（地域福祉課家族支援係）。 | 早期に相談できるよう周知用チラシを認知症関係機関（医療・介護）に広く配布し、相談窓口の認知度を高めていく（地域福祉課家族支援係）。 | |
| | 認知症への理解を促すために、認知症サポーター養成講座を実施し、さらに、認知症サポーターがボランティアとして活動できるような体制を構築。 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、認知症サポーター養成講座の実施数が減少。また、認知症オレンジパートナーの活躍場所が少ない。 | 9月のアルツハイマー月間に合わせて、パネル展示や講演会を実施し、認知症への関心を促す取り組みを実施する。 認知症サポーター養成講座及び認知症オレンジパートナー養成講座において、「よこすかオレンジLINE」の周知を図る。 | 横須賀市の公式LINEを利用しても「よこすかオレンジLINE」の存在は知られていません。良い制度であり、地域の見守りが必要とされるなかとても有効な手段であることから、工夫して周知を図る必要があります。（第1回議事録P3） |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|--------------------------------------|--|--|--|--------------|
| ① 人 権 擁 護 の 担 保 | <p>令和2年9月から認知症への理解を促すために「よこすかオレンジLINE」による情報発信を開始。</p> <p>【登録者数】令和3年7月現在 認知症サポーター：1,052人 認知症オレンジパートナー：87人</p> <p>【配信数】 認知症コラム：11回（月1回） 行方不明者情報：3回</p> | <p>「よこすかオレンジLINE」の登録者を今後どう増やしていくかが課題。また、認知症高齢者が行方不明になった際に、活用ができることを介護家族だけでなく、ケアマネジャーにも周知をする必要がある。</p> | <p>認知症オレンジパートナーの活躍する場及び、認知症カフェなどのオレンジパートナー募集を「よこすかオレンジLINE」で呼びかける。</p> | |
| | <p>認知症予防教室参加者が、認知症予防だけでなく、認知症への理解を深めることができるよう、教室内容の見直しを実施。</p> | <p>「認知症施策推進大綱」においては、予防と共生を共に進めることになっている。認知症予防への関心は高まっているが、「認知症共生社会」への関心は、ある特定の方々にとどまっているため、今後、関心のない方々に働きかける取り組みを行う必要がある。</p> | <p>令和3年度に行った教室内容の見直しの評価を実施予定。</p> | |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|---------------------------------|---|---|---|--------------|
| ② 当 事 者 の 視 点 | 【認知症オレンジ大使】 神奈川県が令和3年4月認知症オレンジ大使を任命した。横須賀市では2名の方が任命されている。現在、意見聴取や声を発信することは行っているが、今後、施策に本人の声を取り入れるために当事者の参画を検討する必要がある。 | 認知症オレンジ大使への依頼が増えることに、大使の方が、負担感を抱かないような配慮が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ かながわオレンジ大使のコラムを「よこすかオレンジLINE」に配信する。 ・ 認知症高齢者等支援連携会議への参加について進める。 ・ 本人の声を会議に取り込むため、まずはオレンジ大使に会議に参加していただき、本人の声を施策に反映させられるよう取り組む（地域福祉課家族支援係）。 | |
| | 【よこすかオレンジLINE】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業立ち上げ時、認知症当事者へのヒアリングを実施。 ・ 認知症オレンジパートナー登録説明会時に、当事者家族のインタビュー動画を作成し、活用。 ・ 当事者、介護家族のコラムを7回発信。 | 様々な立場の人に、コラム作成を依頼していく必要がある。 | コラムの一般募集を実施する。 | |
| | 若年性認知症の本人ミーティングを若年性認知症支援コーディネーターと協力して令和2年度より開始。 ＊若年性認知症支援コーディネーター：平成30年度より神奈川県に2人、令和3年度、4人配置されている。 | 広域で実施しているが、参加者が少ない。対象者が少ないため、若年性認知症支援コーディネーターと連携して、個別につないでいる。 | 実施場所や時間について検討していく。 | |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|-----------------------|---|--|--|--------------|
| ③ 周 知 啓 発 | 認知症ケアパス、認知症お役立ちブックを作成、配布。 | 認知症の相談窓口の周知が不十分。 (横須賀市高齢者福祉に関するアンケートにおいて、相談窓口を知っていると答えた人は31.1%) | 認知症ケアパスの配布と合わせて、認知症お役立ちブックを作成する。 作成に当たっては、認知症当事者の意見を取り入れたり、職域の人を対象に生活上の課題に合わせた内容にしたりすることで、関心のない方々が関心を持つきっかけにしたい。 また、若年性認知症を対象にした認知症お役立ちブックも作成する。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー月間に「オレンジ色を身に着けよう」キャンペーンを実施。 ・北口掲示板、コースカベイサイドストアーズ等でパネルを展示。 | 認知症に関心をもってもらうため、啓発先を広げていく必要がある。 | 現在、イベントが自粛となっており、非接触型のイベントを実施する | |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|--|---|--|--|--------------|
| ④ 関 係 機 関 等 と の 連 携 | <p>【連携協定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市医師会、エーザイ株式会社と「認知症をみんなでささえるまちづくり協定」（平成29年4月14日）。 ・神奈川歯科大学と「認知症トータルヘルス事業連携協定」（令和3年3月11日）。 | ソフト面でのネットワークは進んでいるが、移動手段・交通安全等のハード面の整備に取り組む企業とのネットワーク構築が進んでいない。 | 「よこすかオレンジLINE」、「認知症お役立ちブック」の周知、活用を通して、民間企業との連携を図る。 | |
| | 認知症高齢者支援連携会議を開催（地域福祉課・健康長寿課） | 「認知症施策推進大綱」において「本人の意見を重視した施策の展開」を目標としているが、現在、認知症高齢者支援連携会議では当事者本人の出席がないため、声が入り入れられていない（地域福祉課家族支援係）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者等支援連携会議への参加について進める。 ・本人の声を会議に取り込むため、まずはオレンジ大使に会議に参加していただき、本人の声を施策に反映させられるよう取り組む（地域福祉課家族支援係）。 | |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|--|--|---|---|--------------|
| ④ 関 係 機 関 等 と の 連 携 | にこっとSOSネットワークの構築（地域福祉課家族支援係）。 | 「よこすかオレンジLINE」で行方不明者情報を配信しているが、タイムラグがある。 多くの市民に周知し行方不明者を発見するために、庁内で防災メールや防犯メール利用などの横のつながりが必要。その際、個人情報の保護については十分な配慮が必要（地域福祉課家族支援係）。 | 行方不明状況の的確な聞き取りを行い、迅速な処理を目指す。庁内の横のつながりについては、関係部署と検討する（地域福祉課家族支援係）。 | |
| | 認知症カフェ連絡会の開催。 （市内の認知症カフェを対象に連絡会を開催し、情報交換を実施） | 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止となっている認知症カフェが多い。 | 認知症カフェ連絡会は継続実施 | |
| | 【関係団体との連携】 「認知症の人と家族の会」 「若年認知症の会タンポポ」 「認知症フレンドリーよこすか」 | 様々なイベントなどを通じて、認知症への関心を高めてもらう取り組みを関係機関と一緒に行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でイベントが開催できず活動が鈍化している。 | 事業連携は引き続き実施 | |

| 評価 視点 | A 取組状況や優れている点 | B 問題点・課題 | C 今後の展開 | D この施策・事業の意見 |
|------------------|--|--|---|--------------|
| ⑤ 研 修 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護市民講演会を開催。 ・認知症予防講演会の開催。 ・多職種セミナーの開催（地域福祉課・地域包括ケア担当）。 | <p>認知症予防講演会等に関心が高く参加者が多いが、関心の無い方々に対するアプローチが必要。</p> <p>講演会は感染対策上、人数制限がある。また、オンライン研修は、参加者に更に偏りがある。</p> | <p>高齢者にもオンライン研修に参加できるよう、他の講座等の機会を利用しスマートフォンの操作方法を教示する。</p> <p>広報だけでなく、ホームページや「よこすかオレンジLINE」を活用して周知に努める。</p> | |
| ⑥ そ の 他 | <p>認知症施策推進大綱における「認知症バリアフリーの推進」の中で、当事者・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み「チームオレンジ」の整備が求められ、検討を開始。</p> | <p>認知症サポーター、認知症オレンジパートナー、キャラバンメイトは各々の目的が異なり、理解しづらい状況の中、「チームオレンジ」の在り方について検討をしていく必要がある。</p> | <p>横須賀市における「チームオレンジ」の定義を明確にする。</p> | |